

- ダイハツ、「タフト」等8車種の電動パーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあるとしてリコール
2020年5月29日～2022年8月26日に生産した33万9883台
対象車両＝「タフト」「タント」「トール」「ロッキー」、スバルOEM「シフォン」「ジャスティ」、トヨタOEM「ルーミー」「ライズ」
電動パーキングブレーキを解除するプログラムが不適切なため、ブレーキケーブルの戻し量が不足する場合がある。そのため、そのままの状態を使用を繰り返すと、ブレーキケーブルの作動域から逸脱するため、パーキングブレーキ作動時に異常を検出して警告灯が点灯。最悪の場合、パーキングブレーキが解除できなくなる恐れがある。
- 日産自動車、ECOモータ式アイドリングストップを搭載する4代目「セレナ(C26)」「エクストレイル」およびスズキOEM「ランディ」について火災のおそれがあるとしてリコール
2010年9月20日～2017年6月2日に生産した27万7462台
ECOモータにおいて内部ベアリングのシール性能が不足しているため、異物が浸入するとベアリングが破損し異音が発生することがある。そのまま継続して使用した場合、ECOモータが故障しエンジンが停止するおそれがある。さらに万が一、周辺部品に整備時でこぼれたエンジンオイル等の可燃物がある場合、ECOモータ故障に伴う熱風と火花が開口部から吐出し、周辺部品が焼損、最悪の場合、火災にいたるおそれがある。